

“学びの森”だより

夏の終わりに思うこと

夏が足早に過ぎて行こうとしています。いつもの年より少し短い夏休みではありましたが、小学校の教室には、真夏の太陽をいっぱい浴びた子供たちが元気に戻ってきたことでしょう。中学校においても、部活動や各種競技等、自己の目標に向かって挑戦した生徒たちの一回り成長した姿が見られたのではないのでしょうか。

担任時代を思い返すと、夏休み明けの教室で、久しぶりに生徒に会う気恥ずかしさを感じつつ、集められた課題の山に目を通す時間が好きでした。作文や夏休みのしおりをはじめとする宿題からは、子どもたちのひと夏の生活が垣間見え、それがたまらなく楽しく感じられたのです。先生方は、どんな2学期のスタートを切られたのでしょうか。

この夏、学び浸るたくさんの児童生徒、先生方の姿に出会いました。たとえば、7月下旬に行った「**イングリッシュ・サマー・デイ**」。参加した子供たちは、英語という言語への抵抗感を全く感じさせないほど、屈託のない笑顔でALTと会話を交わし、仲間との交流を楽しんでいました。



学びの森では、「**昼カフェ**」と称し、夏休みだからこそ取り組める研修を3講座ほど実施しました。研修内容と参加いただいた先生方の具体的な感想は、裏面をご覧ください。

「**理科の学習を通しながらの授業改善**」では、上田学先生の教職大学院での学びをまとめた論文発表を伺い、授業準備が理科教育にとってどれほど重要であるかを提示していただいた時間でした。昆虫づくりを行う先生方の童心に戻ったような表情が印象的でした。

目新しかったのは、お子さん同伴でも参加可能な仕立てで行った「**産休・育休明け講座**」です。子育て真っ最中の先生方が抱える不安の全てを取り除くことは難しかったと思いますが、湯山小百合校長先生の講義を交えた2時間ほどの研修は、教師としての自分をもう一度見つめ直すきっかけづくりになったのではないかと自負しています。

「**教師力パワーアップ研修**」には、各学校でミドルリーダーとしての働きを期待されている、20代から40代までの24名の先生方が参加してくださいました。4つのグループに分かれての真剣な語らいに、先生方の本気を感じることができました。ここでの話し合いが、2学期の実践につながることであれば幸いです。

「夏の頑張りは、実りの秋を運んでくれる」これは、夏休みを迎える生徒に対して伝え続けてきた言葉です。働き方改革が叫ばれる昨今ではありますが、やはり自分の中では、今でも変わらない信条です。先生方のこの夏の学びが、子供たちに実りの秋をもたらしてくれることを信じます。

もう一度、学級の約束ごとを確認したり、先生方と子供たち、子供たち同士のリレーションづくりを行ったりと、夏休み明けの教室は、やることが満載です。学びの森は、2学期以降も、学び続ける先生方を応援します。

(文責：照井 久美子)

7月の研修会・講座 開催報告

7月30日(火)、23名の教職経験2・3年目の教員を対象として、市2・3年目研修会が開催されました。西小の芹澤 幸一郎先生を講師にお迎えして、「特別支援教育」について考える研修会でした。

(参加者の感想を一部紹介します)

☆今日は自分のクラスの子供たちの顔を思い浮かべながら聞いていました。学んだことの一つ一つが“あの子のこういう場面で生かせる”“あの子にはもっとこう接すればいいのかもしれない”という思いに繋がりました。私も「一緒に」という言葉がとても大切だと思いました。自分も第二の親のような気持ちで保護者の方と一緒に、そして、子供と一緒に成長していきたいです。

☆「特別支援」という言葉は、その子供が「特別」ということではなく、こちらがその子に対し、特別な配慮をすることだ、ということが印象に残りました。一人の子に対する支援が、全員にとって分かる支援となるようにしていかなければならないと分かりました。

同日午前中、**イングリッシュ・サマー・デイ(教員)**が開催されました。授業に活かせる指導方法など、実際の授業を想定した研修でした。(参加者の感想を一部紹介します)

☆スモールトークやチャンツなどのコツがよくわかりました。特に歌(ABC song)では、ちょっと変えるだけで、難しく・楽しくなるのには目から鱗でした。実際に動きながら話しながらのこの研修はためになると思います。私自身も含めて、もう少し積極的にボランティアとして前に出られると、さらに研修のレベルが上がったと思います。



*** 昼カフェ ***

「理科の学習(こん虫を調べよう)」を通しながらの授業改善

昨年教職大学院で学ばれた、千福が丘小学校の上田学先生を講師に、「生命科学領域における多様性と共通性を視点とした、子供が、見方・考え方を自覚的に働かすための授業改善」についてお話を伺いました。お米粘土で昆虫を造る活動から、あやふやなものを少しずつ明確にし、

体のつくりの特徴や、どこに住み、どのように成長していくのか、次々と繋がりをもちて追究できる楽しさがありました。(参加者の感想を一部紹介します)

☆昆虫の定義を押さえつつ、栖や、体の違いを考えることで、「なぜ」「どうして」などの疑問を持って授業に参加することができるのだと感じました。関連性(栖・体のつくり)を理解するために、どのような工夫を教師がしていくかによって、子供が課題を持てるかどうかが決まってくると思いました。

☆(こん虫をつくる活動では)ただ自由に作成するのではなく、評価を意識し、そのための見方・考え方を培う手立てを教えていただき、参考になりました。どうしても、写真や動画などの映像資料に頼りがちになってしまっていますが、実物や実体験に勝る物はないと再度認識させられました。

産休・育休明け講座

富岡第二小学校の湯山小百合校長先生を講師に、体験談を交えた講話を中心とした研修会でした。教職員育成指標や、新学習指導要領全面实施について、休職前とどう変わっているか確認し、復帰に向けて抱えている思いを出し合いました。

<感想>

☆久しぶりに「研修」に参加させていただき、とてもありがたかったです。湯山先生がご自身の経験をおりませながらお話ししてくださり、学校現場のことはもちろん、子育ての指針もいただいたように思います。研修中、子供を温かく見守っていただき、安心して参加できました。

☆一緒に講座を受けた皆さんも、同じように不安を抱えていることに安心したとともに、職場に戻ってもきっと不安を理解して助けてくれる仲間がいると信じて頑張りたいと思いました。

編集・発行: “学びの森”

〒410-1102 裾野市深良 435 番地

TEL: 055-995-4903 FAX: 055-995-4904

<http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/data/2240002>

